

## 山形・秋田 豪雨 足立議員が被災地視察

建設産業界の職域代表である足立敏之参院議員（自民党）は7月30日、同月24日から27日までの断続的な強い雨により、山形、秋田両県で発生した豪雨災害の被災地を視察した。温暖化の進展に伴って雨の強さや降り方が変わり、水害・土砂災害が激甚化する中、



東北地方整備局の職員から被災状況の説明を受ける足立議員（右）

「河川の流下能力が足りていない」とし、気候変動の影響を考慮した河川整備基本方針と河川整備計画への見直しを加速する必要があると指摘する。

今回の豪雨災害は、雨量観測所3カ所で雨量が観測史上最大、水位観測所15カ所では水位が観測史上最高となるなど、これまで比較的雨量が多くないエリアで記録的な降雨と水位になった。

山形県酒田市の大沢地区は、河川の流下能力を超えたことによる越水で、沿川の谷状地形に広がる集落や農地が被災し、「谷全体を氾濫流が流れたような状況だった」とする。

山形県戸沢村では、道路の

## 気候変動考慮した河川整備へ

## 基本方針など見直し加速を

崩落で国道47号が通行止めになり、一般住民らは広域での迂回（うかい）を余儀なくされていた。国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所からは、国道47号が重要な道路であるため、まずは2週間程度での片側交互通行開始に向けて復旧作業を進めているとの説明を受けた。この現場を視察し、重要な道路の区間は事前に防災対策を実施して、信頼性の高い道路にする必要があると改めて感じたとしている。

その後、秋田県に移動し、直轄管理区間の子吉川で破堤した箇所を確認するとともに、子吉川の本川上流で建設工事中の鳥海ダム現場を訪れた。鳥海ダムを含む貯留施設は、下流の水位低下効果が見込まれるため、着実に整備を進める必要があると指摘する。